

Statistics practice course for nutritional science

1 unit (selection)

栄養学科教員

Target) 情報を数値化して比較する作業は、自然科学のあらゆる分野で行われている。栄養学においてもそれは例外ではない。栄養調査や各種実験などで得られた情報は、数値化し客観的に比較・検討することによって初めて正しく利用することができる。本実習では、複数の数値情報間に客観的な差(有意差)があるということがどういう意味なのかを理解し、数値間の比較の方法を習得することを目的とする。複数の数値情報間の差を検定する方法をいくつか紹介し、実際にそれらを利用することにより、局面に応じて最適な検定法を用いることができる力を養う。

Schedule)

1. 統計量と片寄り
2. 「有意差」とは何か
3. 関連2群間の差の検定(パラメトリック)
4. 関連2群間の差の検定(ノンパラメトリック)
5. 関連2群間の差の検定まとめ
6. 独立2群間の差の検定(パラメトリック)
7. 独立2群間の差の検定(ノンパラメトリック)
8. 独立2群間の差の検定まとめ
9. 多群間の差の検定(1)
10. 多群間の差の検定(2)
11. 相関係数
12. 自由課題の選定
13. 自由課題の検討
14. 自由課題の発表(1)
15. 自由課題の発表(2), 実習の総括

Textbook)

- ◇参考書:「バイオサイエンスの統計学」-正しく活用するための実践理論 市原 清志著 南江堂
- ◇実習の進行に合わせて必要な資料を適宜配布する。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217906>

Contact)

⇒ 栄養学科教員